

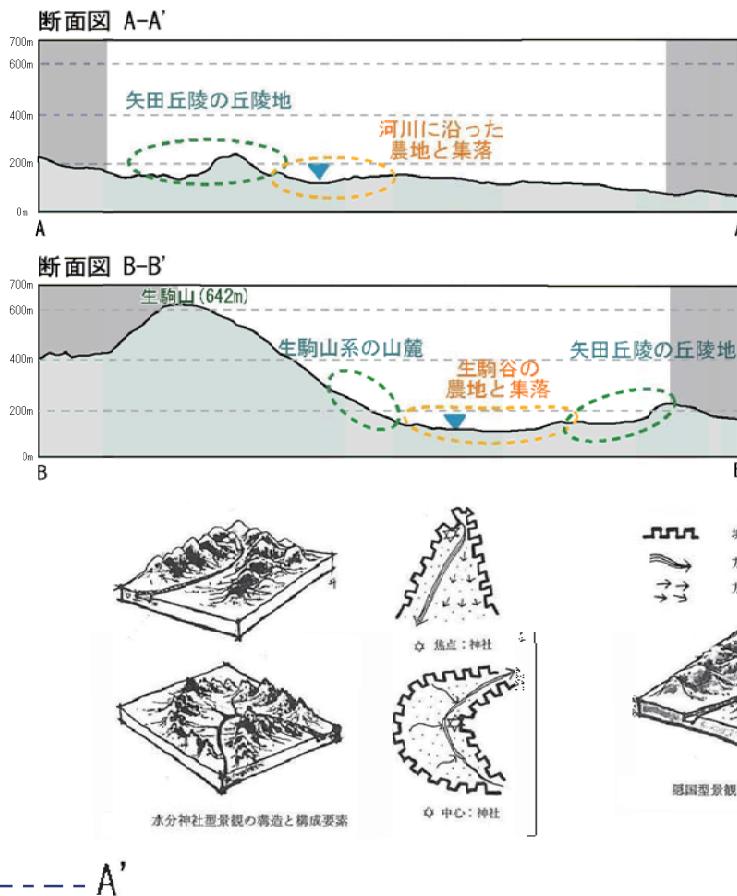
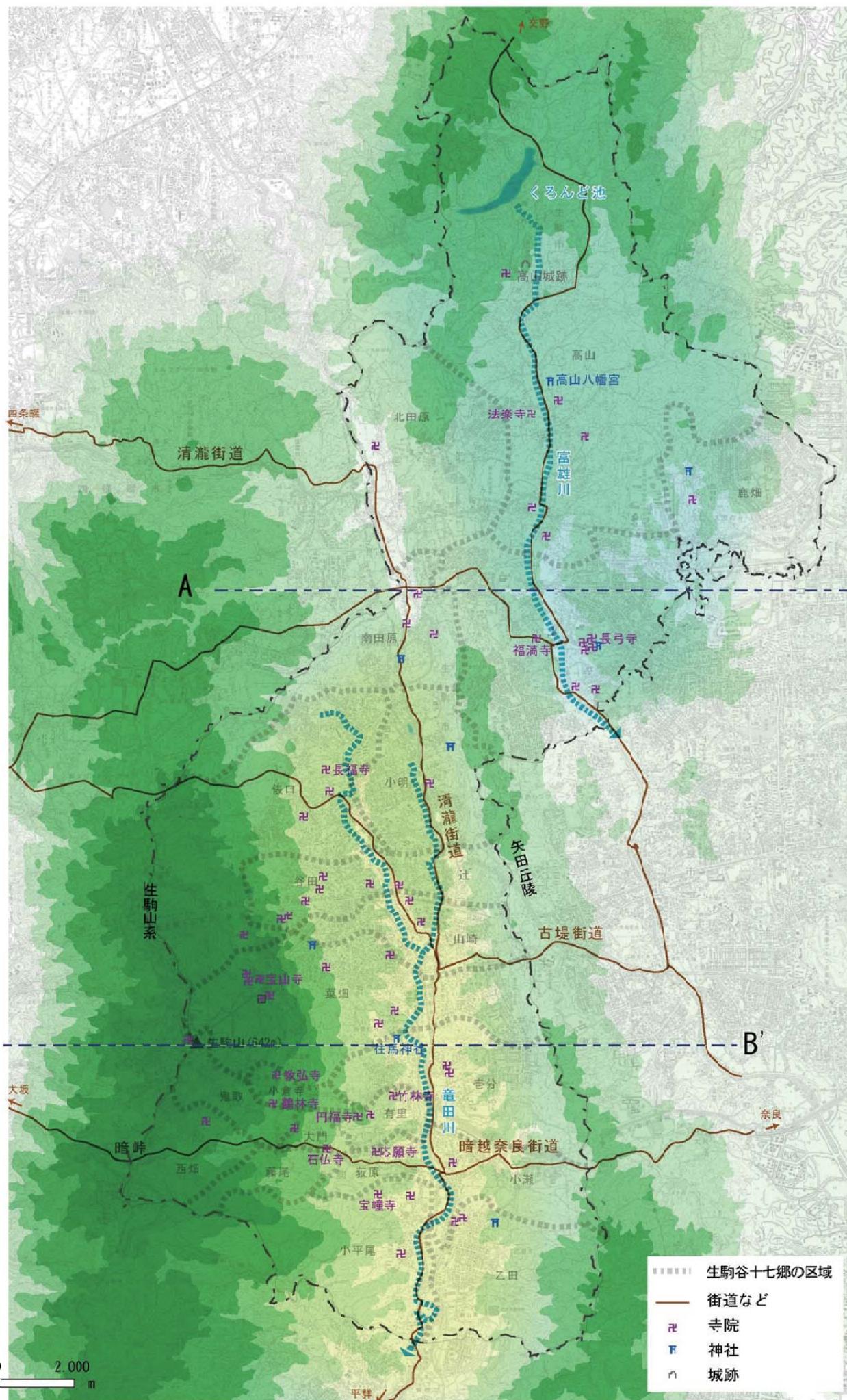
生駒の景観構造と特徴の分析

(目次)

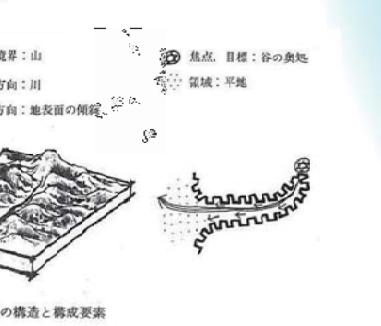
- 1 全体の景観構造
- 2 歴史的、文化的文脈と景観の特徴
- 3 住宅団地の開発経緯と景観の特徴

1 全体の景観構造

1 全体の景観構造

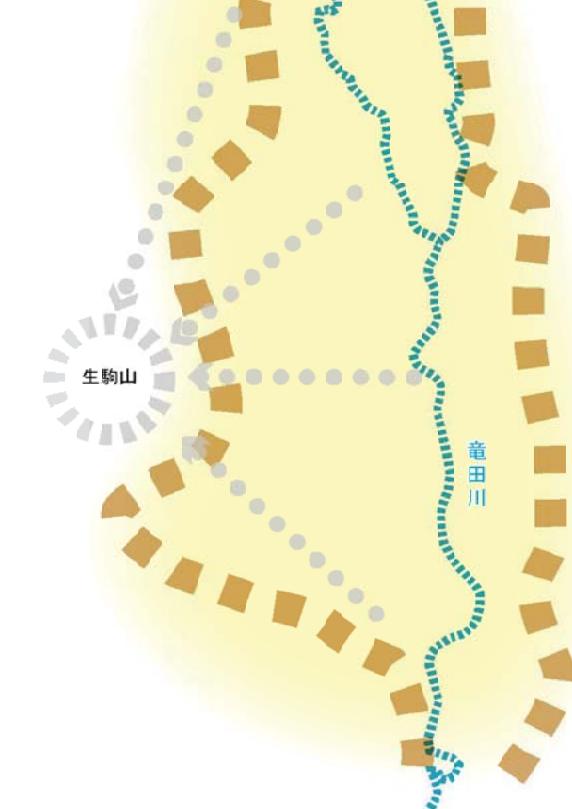
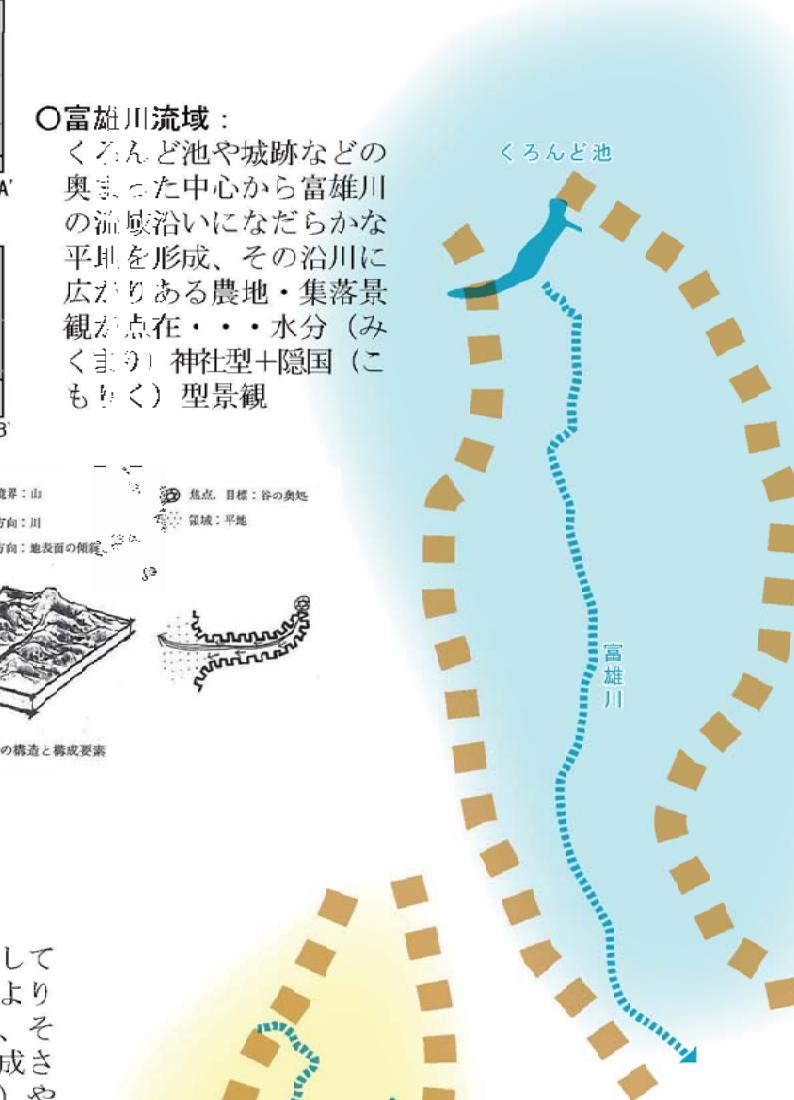
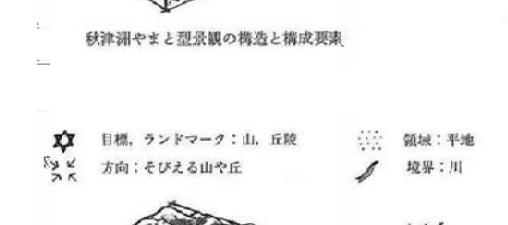
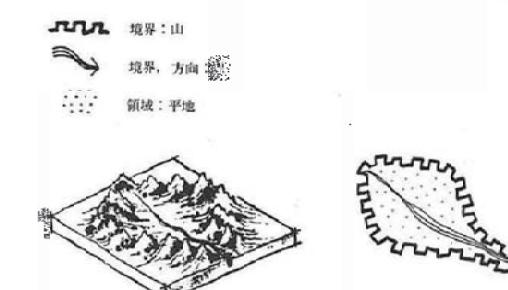


○富雄川流域：
くろんど池や城跡などの
奥まった中心から富雄川
の流域沿いになだらかな
平地を形成、その沿川に
広がりある農地・集落景
観が点在・・・水分（み
くまり）神社型+隠国（こ
もりく）型景観



○童田川流域（牛駒谷）

生駒山が山岳修行の場、信仰の地として求心性を持ちながら童川川の水系により平群方面に向かって南北の谷を形成、その狭い谷筋と山地の斜面に裏落が形成された構造・・・秋津沢（あきつしま）やまと型土神奈備（かみなび）型



眺望に表れる生駒の景観の構造

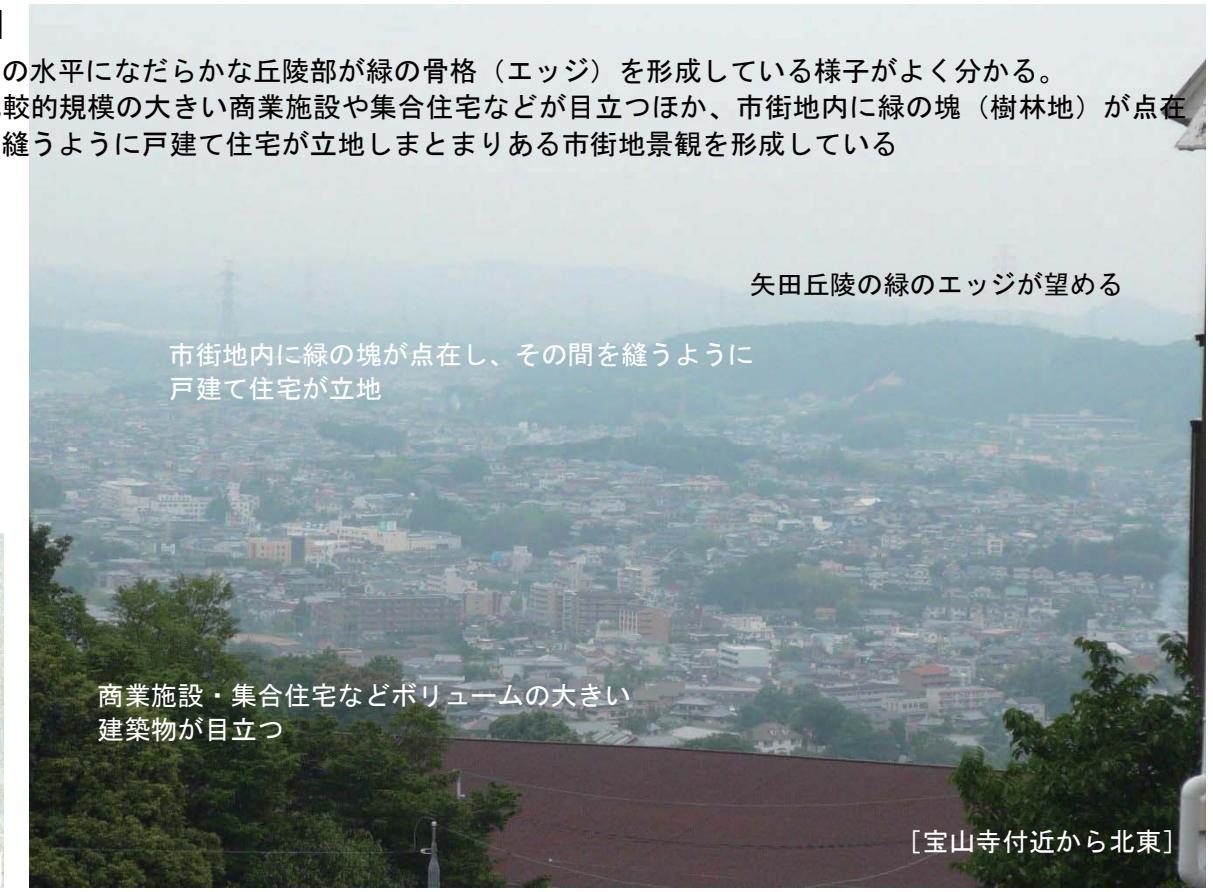
【見上げる景】

生駒山は生駒谷の各所から概ね望むことができる。山肌が急峻な斜面を形成し、かつ山頂部分が突出した“山”としての形状をなしていることから、シンボル性が高い（神奈備山型）。特に、生駒谷の南部から見ると山頂の姿が一番きれいに映る。



【見下ろす景】

矢田丘陵などの水平になだらかな丘陵部が緑の骨格（エッジ）を形成している様子がよく分かる。市街地内は比較的大規模の大きい商業施設や集合住宅などが目立つほか、市街地内に緑の塊（樹林地）が点在し、その間を縫うように戸建て住宅が立地しまどりある市街地景観を形成している



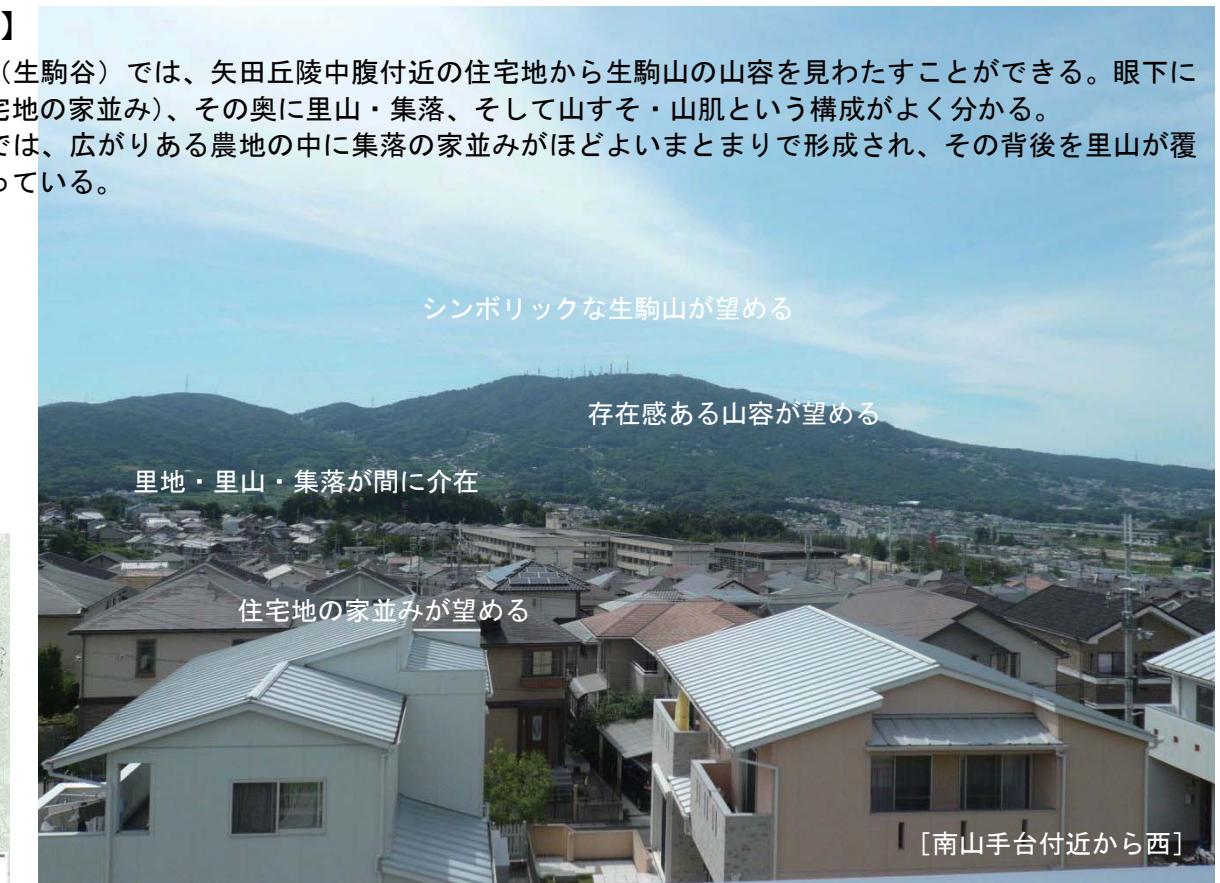
【見とおす景】

富雄川、竜田川が形づくる谷筋が広がりある見通し景を形成しており、河川の水面や沿川の緑のしつらえが潤いを演出するとともに、その周囲に位置するなだらかな山なみ・家並みによって視線を奥へといざなう。しかしながら、視線の先にシンボルとなるものが存在するわけではない。



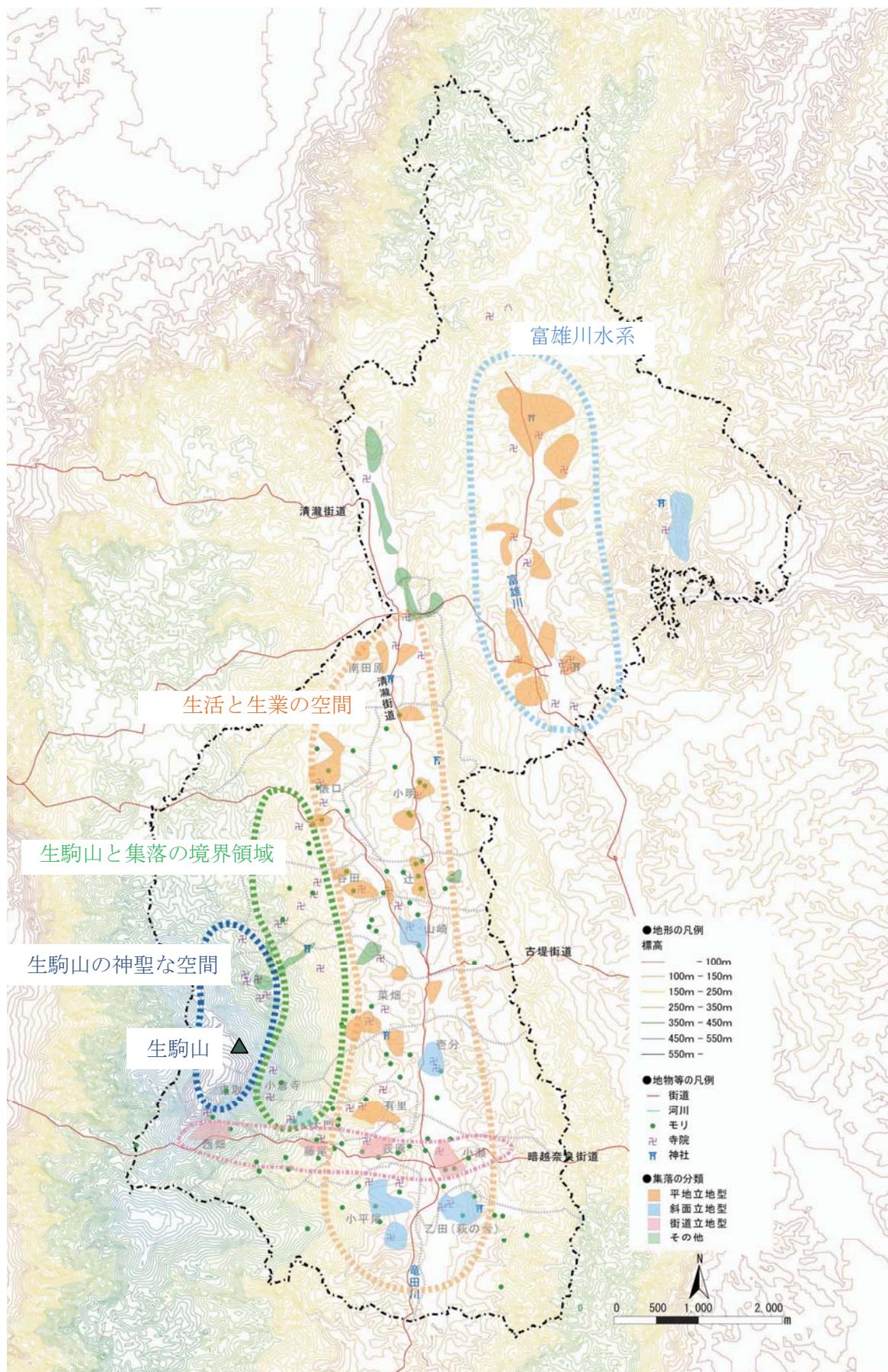
【見わたす景】

竜田川流域（生駒谷）では、矢田丘陵中腹付近の住宅地から生駒山の山容を見わたすことができる。眼下に市街地（住宅地の家並み）、その奥に里山・集落、そして山すそ・山肌という構成がよく分かる。富雄川流域では、広がりある農地の中に集落の家並みがほどよいまとまりで形成され、その背後を里山が覆う構造となっている。



2 歴史的、文化的文脈と景観の特徴

2 歴史的、文化的文脈と景観の特徴



2-1 水系ごとの空間構成

竜田川水系（生駒谷）

【生駒山の山頂を中心とする空間（写真A）】

— 生駒山の神聖な空間

- ・古来から修験者の修行の場であり、神聖な空間。
- ・概ね標高 350m 以上。



写真A 宝山寺

【生駒山の山麓の空間（写真B）】

— 生駒山と集落の境界領域

- ・生駒山と集落の境界領域に、帯状に寺院が立地している空間。
- ・概ね標高 150～350m。



写真B 生駒山山麓（仲之町付近）

【生駒谷の平地の空間（写真C）】

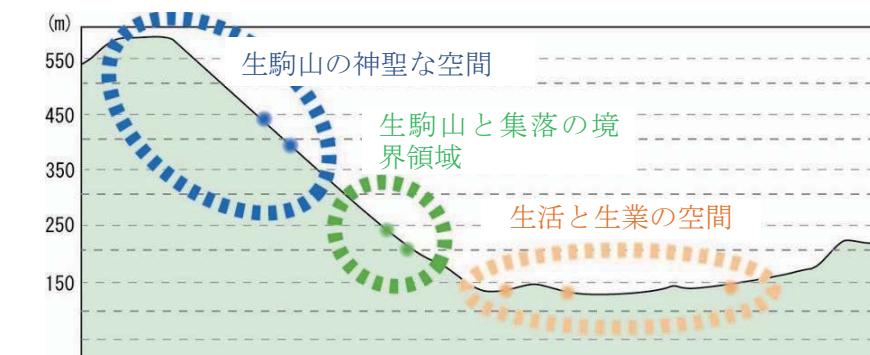
— 生活と生業の空間

- ・河川沿いに農地が拓かれ、集落が形成されてきた空間。
- ・概ね標高 100～150m。



写真C 西菜畠町

図 生駒谷の空間構成



竜田川水系 (写真D)

- ・平地及び丘陵部に農地が拓かれ、中世は荘園があった。現在も農業が営まれている空間。



写真D 高山町

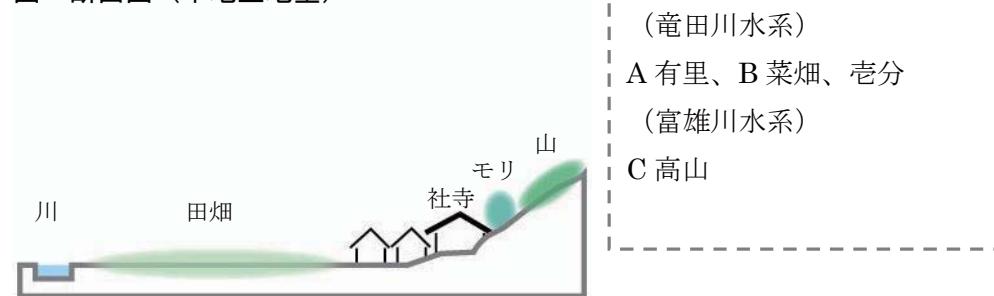
2-2 集落の立地による類型

立地する地形により、集落は次の3つに分類できる。

I 平地立地型

- ・川沿いの平地に田畠があり、山との間に家々が立地。

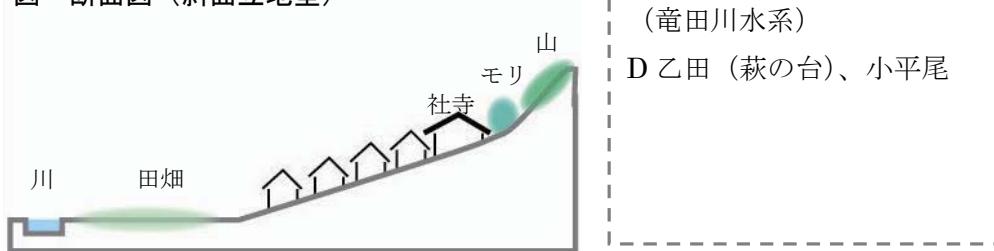
図 断面図（平地立地型）



II 斜面立地型

- ・川沿いの限られた空間に田畠があり、斜面に家々が立地。

図 断面図（斜面立地型）



III 街道立地型

- ・街道の両側に家々が立地。

図 平面図（街道立地型）

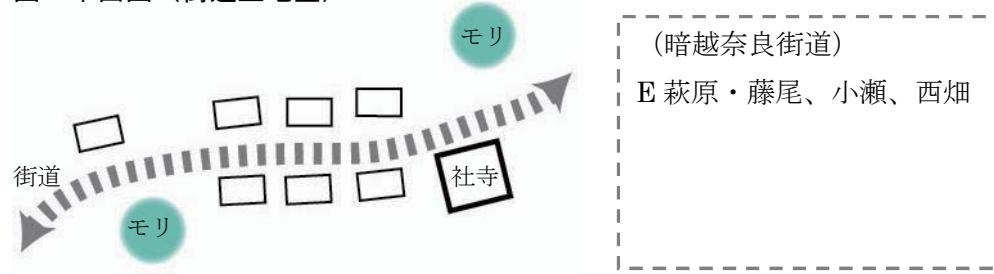
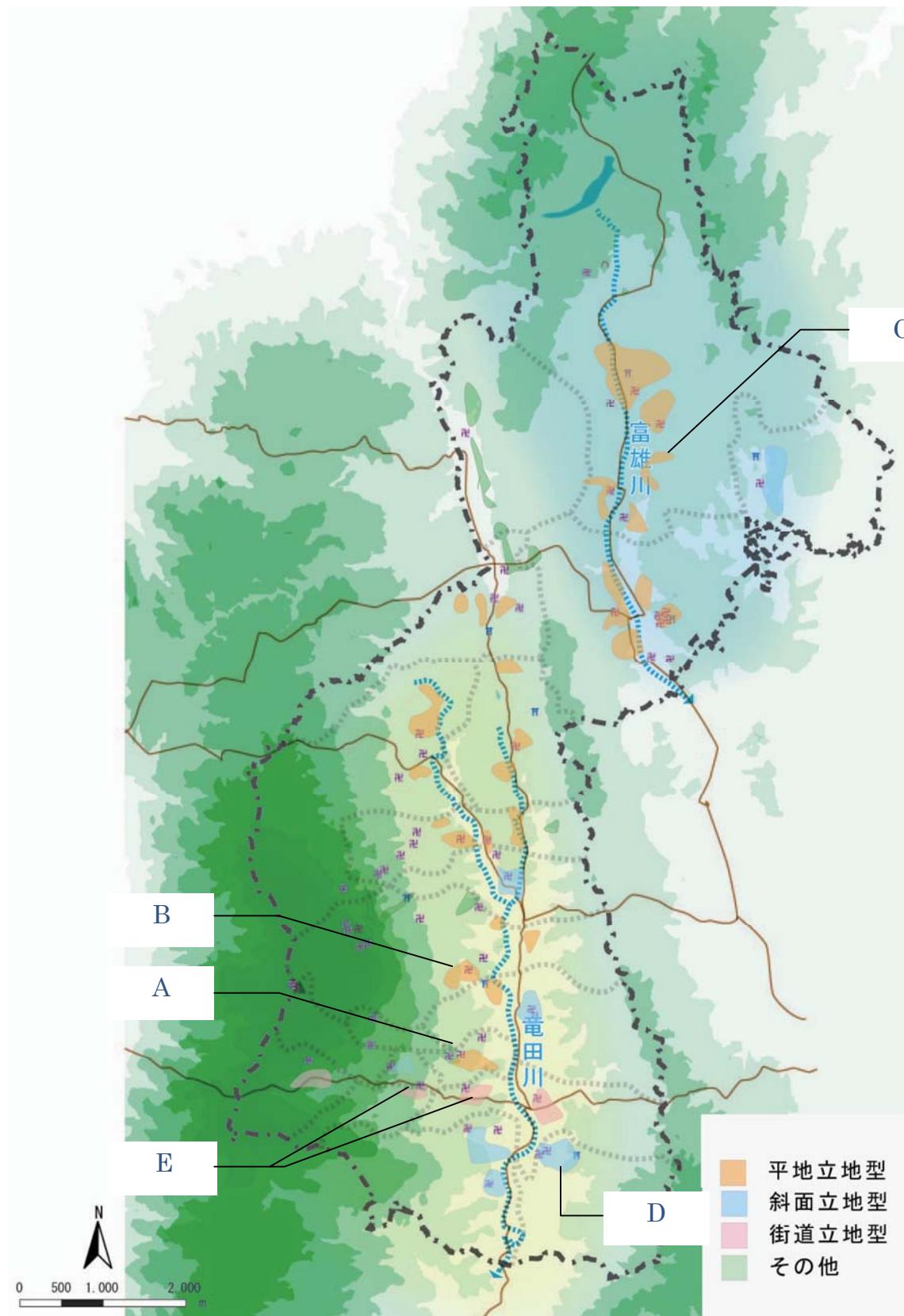


図 集落の類型

A～Fについて現地調査を行なった。

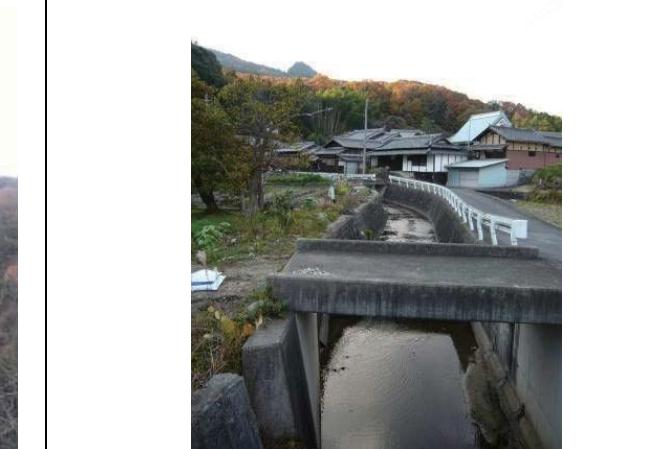


2－3 集落の景観の特徴

(1) 類型ごとの特徴

<p>【I 平地立地型】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田畠の広がりがある。(写真 A) 道が平坦で、ゆるやかに湾曲しているので、穏やかな印象を受ける。(写真 B) 住宅の敷地が大きく、ゆったりとしている。(写真 C) 	<p>写真 A</p>	<p>写真 B</p>	<p>写真 C</p>
<p>【II 斜面立地型】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田畠の規模が小さく、棚田の場合もある。(写真 A) 家々の間を縫うように坂道が曲がりくねって通っているので、取り囲まれているように見える。(写真 B) 敷地の高低差が大きいため、屋根や壁が入り組んでいる。(写真 B) 高い位置に社寺が立地し、見晴らしが良い。(写真 C) 	<p>写真 A</p>	<p>写真 B</p>	<p>写真 C</p>
<p>【III 街道立地型】</p> <ul style="list-style-type: none"> 街道の脇道沿いに、小さい農地が点在している。(写真 A) 道は比較的直線的で、幅員がほぼ一定、見通しが良い。(写真 B) 石垣や生垣が街道の両側にあり、連続している。(写真 B) 建物の前面に、豊かな庭木や生垣があり、通りから建物が見えにくい。(写真 C) 	<p>写真 A</p>	<p>写真 B</p>	<p>写真 C</p>

(2) 集落の構成要素

眺望			
【集落の全景】 	【生駒山への眺望】 	【生駒山への眺望（宝山寺の付近）】 	【矢田丘陵への眺望】 
自然の地形			
【見晴らし（屋根並み）】 	【高低差による屋根の重なり】 	【里山】 なだらかな里山が広がる 	【川】 
農地			
【田】 平地に分布 	【畑】 	【棚田】 山麓の斜面に分布 	【ため池】 里山に多く分布 

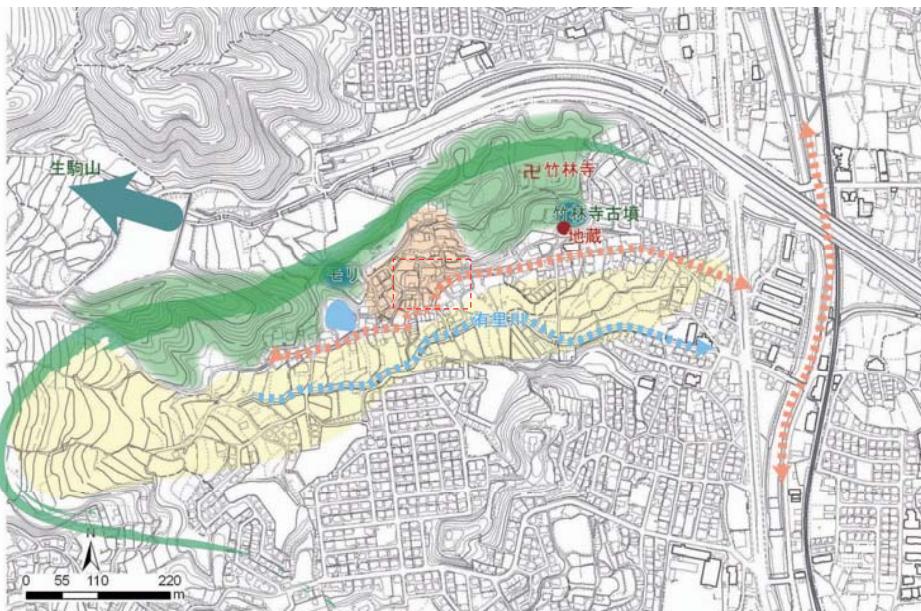
道	【平坦な道】	【街道】	【坂道】	【等高線に沿った道】
				
信仰	【神社】	【寺】	【モリ】	【墓】
多くは集落より高い位置に立地 	多くは集落より高い位置に立地 			
集落の中心	【地蔵】	【火の見櫓】	【集会所】	ランドマーク
集落の出入り口付近に立地 	集落の中心付近に立地 	集落の中心付近に立地 	【道標】 	

敷地の境界			
【巨木】 集落の出入り口付近や目につきやすい位置に立地 	【石垣】 	【生垣】 	【庭木】 
建物			
【建物（古民家）】 	【建物（建て替え後）】 	【大和棟】 	【蔵】 
生活の場			
【長屋門】 	【水汲み場】 	【農産物直売】 	【生活の滲み出し】 

(3) 集落の景観の特徴

A 有里町

○集落の構造



- 生駒山の山麓部に、有里川が流れ、川に沿って田畠がある。
- 古くから人が住まう場所で、竹林寺および竹林寺古墳が周辺に存在している。
- 田畠と山との間に古い集落が立地している。
- かつて田畠だった空間は、宅地として開発が進んでいる。



集落奥の微高地には、生駒山竹林寺が鎮座し、周囲を深い緑が取り巻いている。
竹林寺古墳、行基の墓（史跡）がある

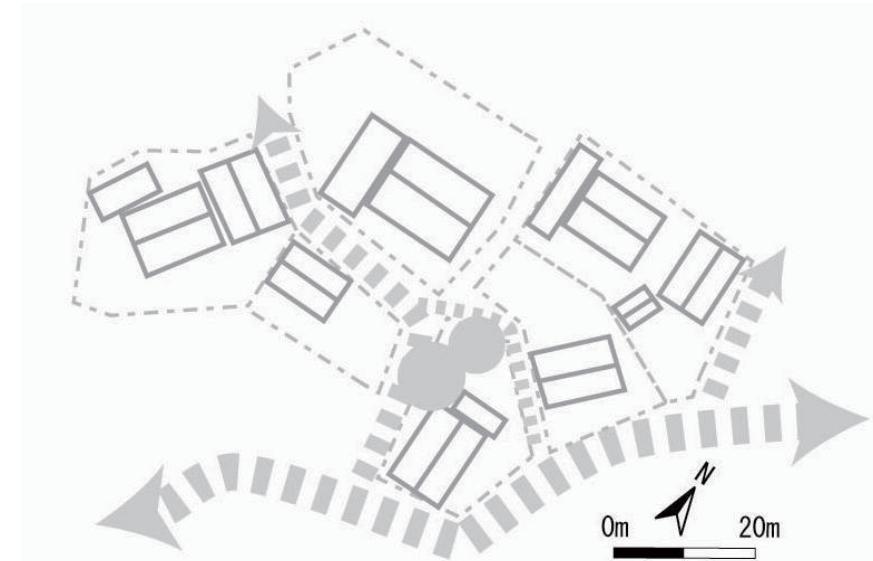


集落の入り口には、境界であることを感じさせるような、存在感のある樹木がある

○まちなみ

- 集落内の道からは、重厚な漆喰の塀や樹木が見える。
- 地形に沿って立地する家々は、まとまりのある遠景を形成している。
- 集落の入り口には巨木がある。

拡大図（左ページ破線部分）



白壁が連続している



集落の入り口にある家屋は、色とりどりの植栽が施されており、背後にはランドマークとなる巨木が姿を見せている



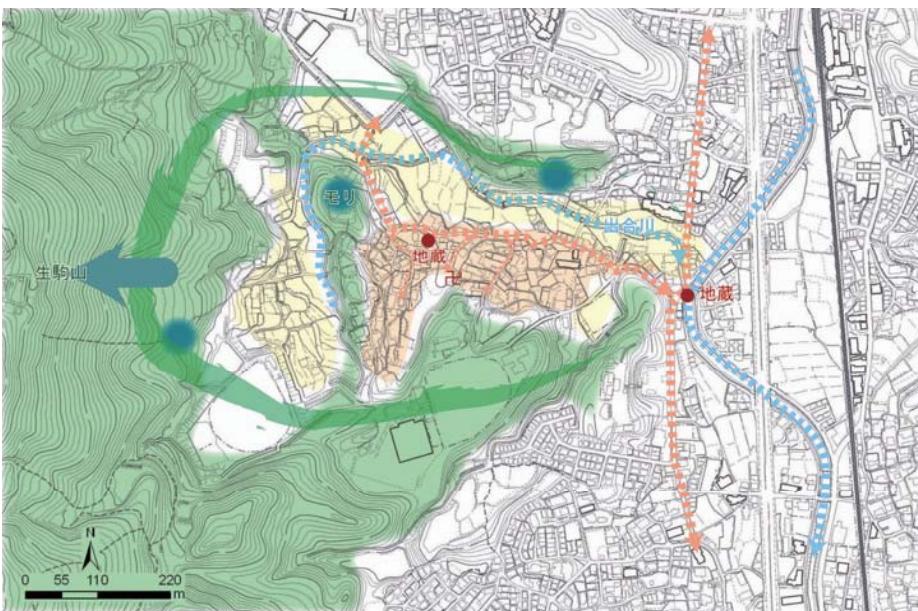
かつて田畠だった平坦な空間は、開発によって家屋が立ち並ぶ景観となっている



古くからの集落と開発された空間とは、屋根の形、門構えや植栽等により、異なる住宅地の景観となっている

B 西菜畠町

○集落の構造



- 生駒山の山麓の緑の襞の間に、出合川が流れ、河川沿いの平地に田畠がある。田畠と山との間に家々が立地している。
- 集落を取り囲むように、モリが鎮座している。集落の出入り口には、地蔵がある。



平地には田畠が広がる



集落を包むように、見下ろせる位置にモリが鎮座する



集落の入り口には、地蔵が鎮座している

○まちなみ

- 西の方角には生駒山が位置し、集落内の道の視線の先に、生駒山の頂上が見える。
- 各敷地の境界には、石垣や生垣が配される場合や、樹木がある場合が多い。



集落内の道からは、生駒山の頂上が垣間見える



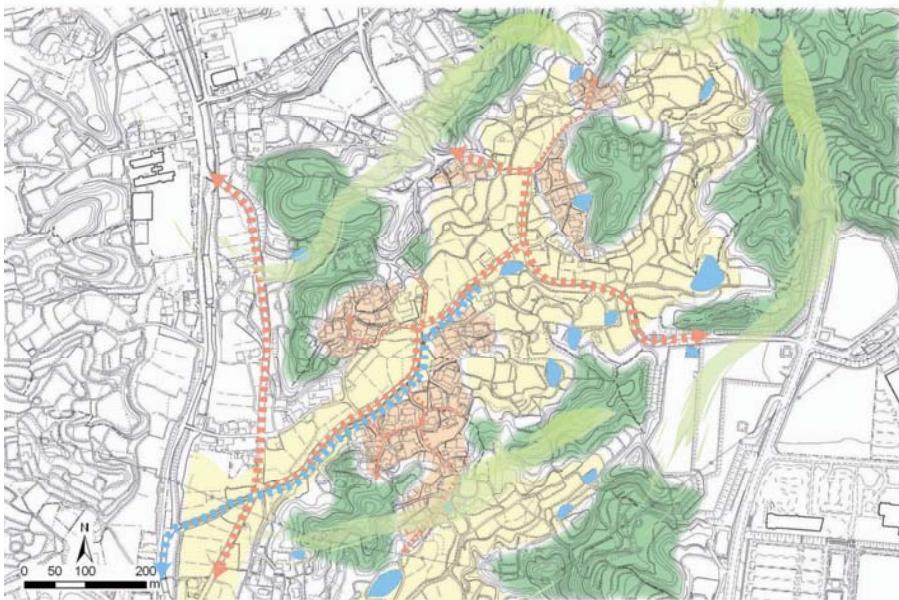
重厚な屋根の連なりが、背後の樹林、向こうに見える生駒山につながっていく



敷地の境界には、石垣や生垣、樹木がある

C 高山町

○集落の構造



- なだらかな里山で、河川の水や数多く存在するため池の水をつかって、農業が営まれている。
- 集落は里山を背にして、田畠に接して立地している。田畠を見下ろす高台に、寺院と墓地が存在する。



なだらかな斜面に、里山が広がっている



集落や田畠の付近にため池が存在している



里山を背に、田畠に接して家々が立地する

○まちなみ

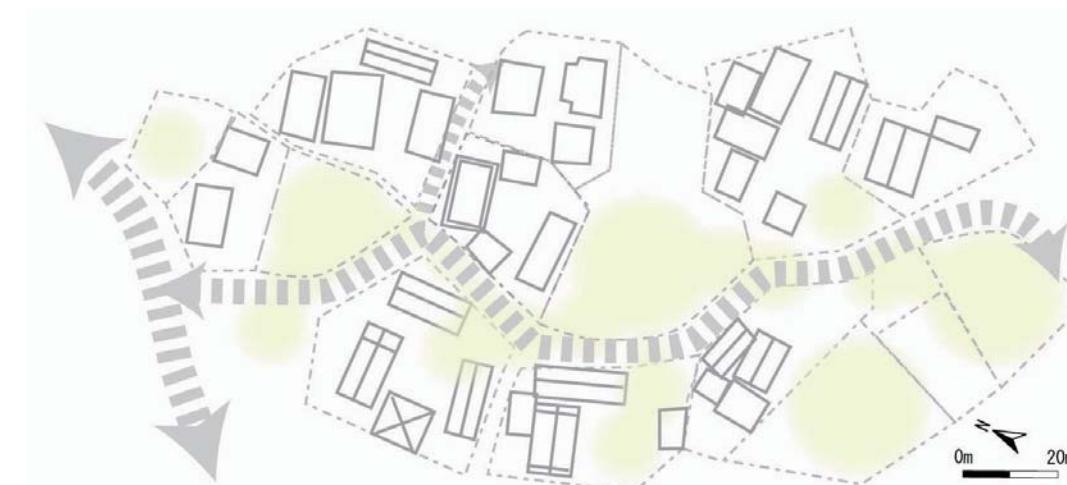
- 集落内の各敷地には広々とした前庭があり、また家と家の合間に田畠が存在するなど、オープンスペースが点在している。
- 母屋と納屋、蔵と長屋門が一セットとなっている。



家々の合間には、畠等のオープンスペースが点在している



各敷地が広い庭を有している



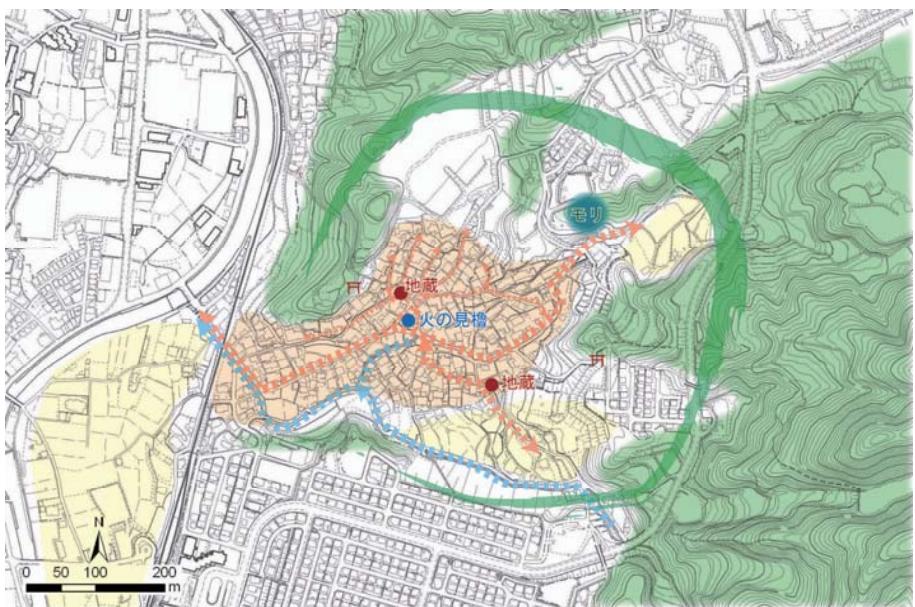
広い敷地に、蔵が立ち並んでおり、豊かな農村集落のイメージを抱かせる



各集落に、共同の水汲み場の跡があり、かつての水を中心とした地域の関わり合いの姿を想像させる

D 乙田町（現萩の台）

○集落の構造



- 矢田丘陵の斜面を這い上るよう家々が立ち並んでいる。
- 集落を見下ろせる場所には、モリや神社が位置している。集落内には地蔵がある。



集落の頂上からは、地形に沿って立地する集落の屋根などと、その向こうに広がる生駒山の山麓が見渡せる



集落の中心を示す、火の見櫓がある



集落で最も高い場所には、モリが鎮座する



家々の間を縫うように、細い路地がある



集落内には地蔵があり、巨木に守られている

○まちなみ

- 生活が限られた空間に凝縮され、細い路地に滲み出し、親密な路地空間を形成している。
- 敷地ごとに高低差が大きく、屋根と壁が互い違いに存在し、豊かな表情を見せてている。
- 狭小なオープンスペースが、畑や植栽など多様な使いこなし方をされている。



各家庭の生活が、公共空間へしみ出している



狭小な空間が、農業や植栽等に活用されている



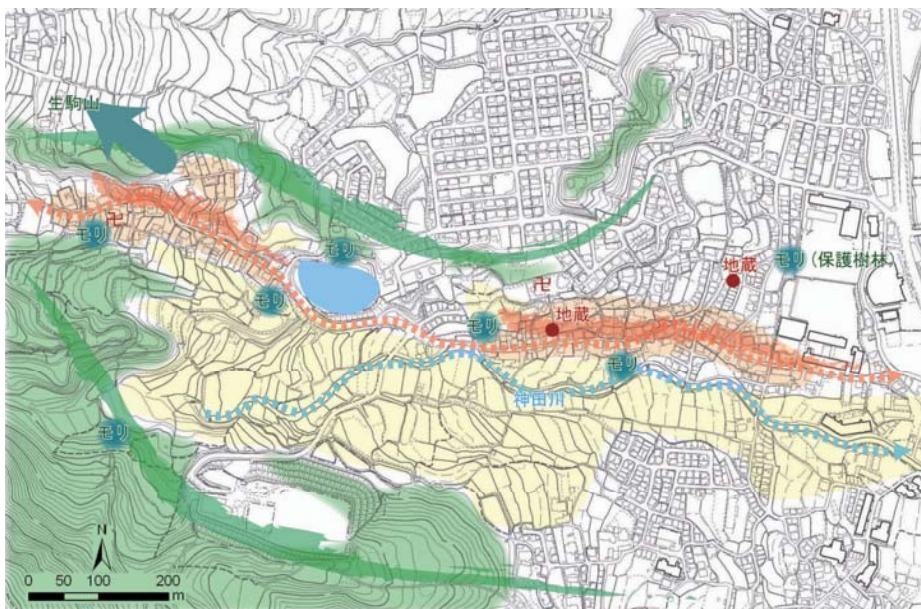
高低差が大きいため、屋根や壁が様々な角度の多様な表情を見せる



各敷地は広くはないが、大和棟の立派な家屋がひしめくように存在している

E 萩原町、藤尾町

○集落の構造



- ・ 暗越奈良街道は、古代から大坂と大和をつなぐ最短の街道として多くの人が往来した。街道に沿って、家々が立ち並んでいる。
 - ・ 街道と並行して神田川が流れしており、川沿いに棚田が広がる。



比較的直線的に街道が走り、線的な景観となっている（藤尾町）



集落の入り口からは、生駒山の一部が垣間見える（藤尾町）

- ・ 街道に沿って、モリが鎮座している。
 - ・ 街道からは西には生駒山が、東には矢田丘陵が見える。

○まちなみ

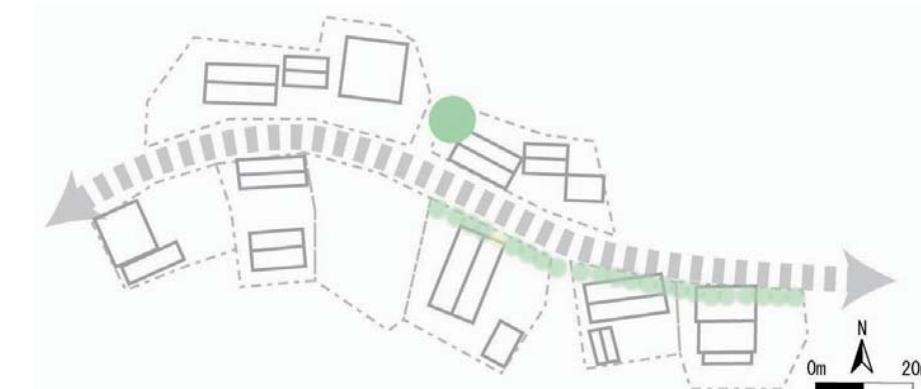
- ・ 街道は比較的直線的で、見通しが良い。
 - ・ 生垣や中高木の庭木が並び、緑を印象付けるとともに、人々の生活を視界から遮っている。
 - ・ モリが現在も大切に保護されており、市指定の保護樹林となっているものもある。



石垣、生垣が連続している（藤尾町）



集落の上の方に、背の高いシンボリックな木が見える（藤尾町）



街道の先には、矢田丘陵が見える（藤尾町）



萩原町のモリの一つは、市指定の保護樹林として保全されている（萩原町）



お堂が設置され、地蔵が安置されている（萩原町）